

令和3年度 学校教育努力点

1 研究主題

互いを認め合うことができる児童の育成 ～自己との対話を通して～

2 主題設定について

昨年度は、「互いを認め合うことができる児童の育成～自己との対話を通して～」を主題に掲げ、学校努力点に取り組んできた。本主題は、2年間継続して行っている。昨年度は、自己との対話に重点を置いた。低学年から高学年まで、自己との対話をするために自分の意見や考えの持たせ方、他者の考えの引き出し方や共感の仕方など、さまざまな手立てを講じて、目指す児童像に迫ることができた。

1年間の児童の様子から、一定の成果が見られ、継続して実践することで互いを認め合うことができる姿に近付くことができたと考える。今年度は、さまざまな学年で行ってきた実践を改善して実践したり、他学年の授業の場面で有効であるかを試したりすることで、更なる、児童の成長を期待している。大きく研究の方向性を変えるわけではなく、今までの研究の財産を生かしながら、手立てを整理して実践していくことを望んでいる。このような、対話を大切にし、学びを追求することは、新学習指導要領に位置付けられている「主体的・対話的で深い学び」を実現する上でも、大変、意義深いものである。

以下の昨年度の手立てを参考にし、実践を進めていくことをイメージしている

【昨年度の実践の手立て例（学習場面や学習活動における手立て）】

- 自分の考えをもつための導入の工夫
- 自分の考えや意見を話したり書いたりするのが難しい際の、表現の仕方の工夫
- 自分を知るための工夫
 - ・ 自己チェックができるようなワークシート
- 「考えの見える化」の工夫
 - ・ 自分の考えを相手に伝える
 - ・ 振り返りを通して自分の考えの変容の比較

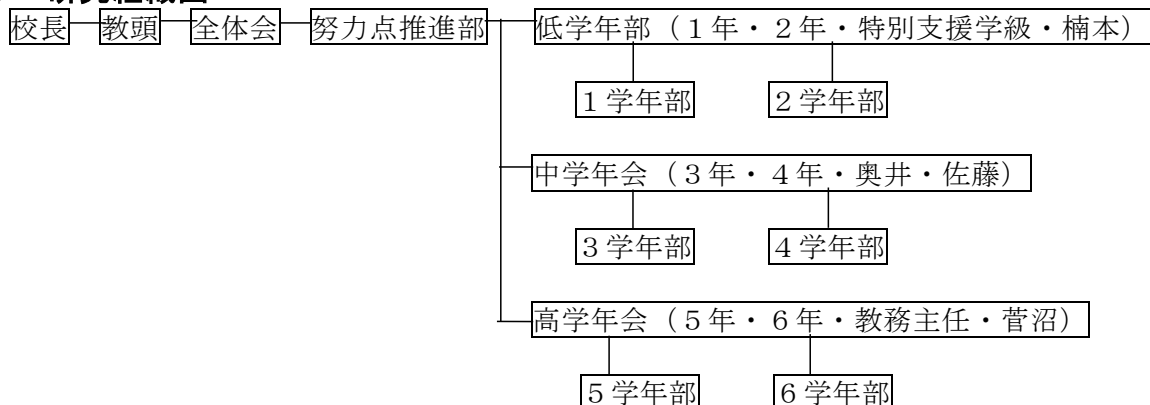
3 研究の方法

- (1) 各学年の実態に応じて、学年ごとに手立てを話し合う。
 ※ 学年で、実践の振り返りや検証（一人1授業実践）を行う。各授業の事前・事後検討会は学年で必要に応じて行う。指導案を見て、気付いたことを伝えたり、参観後に事後検討会に参加したりすることは、適宜、よいこととする。
- (2) 学年内の授業実践は、参観するようにする。また、異なる部会の授業も一人1回は、参観するようにする。
- (3) 中間報告会、最終報告会で、授業の工夫や活動の内容を、学年ごとに発表する。
- (4) 授業実践の際は、日程調整を正確にする。1日に二人以上が授業を行うことがないように係が調整する。

4 年間計画

月	日	曜	内 容	
4	2	金	努力点推進委員会	本年度の方針・計画の検討
	12	月	努力点全体会	本年度の方針・計画決定
			学年部会	各学年の年間計画の検討、 前期実践・授業の検討
	28	水	年間計画報告書提出日	
適宜		学年部会	前期実践・授業の検討	
5	適宜		学年部会	前期実践・授業の検討
6	適宜		学年部会	前期実践・授業の検討
9	適宜		学年部会	前期実践・授業の検討
10	21	木	中間報告書提出日	
	28	木	中間報告会	前期の成果・課題と後期計画の検討
11	適宜		学年部会	後期実践・授業の検討
1	適宜		学年部会	後期実践・授業の検討
2	3	木	最終報告書提出日	
	10	木	最終報告会	年間の成果・課題
			学年部会	次年度に向けての方向の検討
28	月	努力点推進委員会	次年度に向けての方針・計画の検討	
3	14	月	努力点全体会	次年度に向けての方向・計画の確認

5 研究組織図



6 その他

- 授業実践にあたって、指導略案を作成する。
- 授業実践者は、実践1週間前までに、授業予定日と教科を努力点推進委員長に報告する。
- 指導略案は、前日までに各職員に配布する。（50部印刷）